

インバウンドの「変化の兆し」をいち早く 都道府県別訪日外客数と訪問率

月次指標の早期推計：8月レポート

稲田義久（APIR 研究統括兼数量経済分析センター長）
松林洋一（APIR 主席研究員）
野村亮輔（研究推進部）
内容に関するお問い合わせは下記まで
e-mail:nomura-r@apir.or.jp

ポイント

●8月都道府県別訪日外客数と訪問率の早期推計*

▶8月の関西2府8県別に訪日外客数(推計値)をみると

(表1及び図1)、福井県12人、三重県58人、滋賀県67人、京都府2,435人、大阪府2,854人、兵庫県474人、奈良県808人、和歌山県74人、鳥取県28人、徳島県20人となった。各府県の伸び率をみれば、前年同月比-99%程度の減少となっている。

▶運輸局別では(表1)、北海道602人、関東4,487人、中部1,192人、近畿3,624人、九州731人となった。

▶8月の訪問率(推計値)を関西2府8県別にみると(表2及び図10)

、福井県0.1%、三重県0.7%、滋賀県0.8%、京都府28.0%、大阪府32.8%、兵庫県5.5%、奈良県9.3%、和歌山県0.9%、鳥取県0.3%、徳島県0.2%となった。前月から訪問率が上昇したのは三重県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、鳥取県、一方低下したのは滋賀県、徳島県であった。なお、福井県は横ばいだった。

●8月発表データのレビュー

▶JNTO 訪日外客数推計値(表3及び図11)によれば、8月総数は8,700人(前年同月比-99.7%)となり、11カ月連続のマイナス。ビジネス目的での長期滞在者の往来再開や在留資格をもつ外国人の再入国が一部緩和され、前月(3,700人)から幾分増加したが、低水準が続いている。

▶国・地域別のトップ5は、中国が1,600人、ベトナムが1,100人、米国、韓国が700人、台湾、タイが400人であった。前年比の伸びはベトナム(-97.5%)を除いてほぼ-99%程度であり、訪日外客の回復は依然みられない。

▶東アジアの伸び率をみると中国、台湾、香港は7カ月連続、韓国は14カ月連続のマイナス。日本政府は、(1)8月から再入国許可保持者の再入国を一部認め、(2)9月から在留資格をもつ外国人の再入国についても全面緩和し、加えて、(3)ビジネス目的での短期滞在者の受け入れ開始を検討している。ビジネスや留学目的等に限定された措置だが、今後訪日外客数は幾分増加する可能性があるだろう。しかし、新たに入国する外国人や観光目的での往来は引き続き制限されているため、訪日外客の大幅増加は期待しづらい。

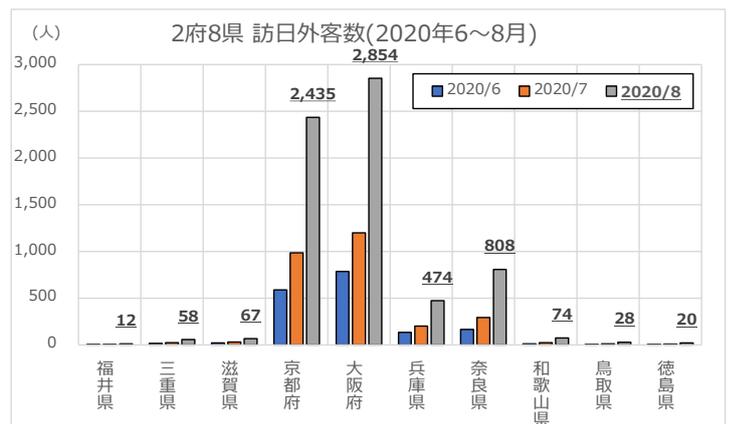
表1 都道府県別訪日外客数の早期推計表

府県ベース	2020/6	2020/7	2020/8	20Q1	20Q2
福井県	4	5	12	7,880	12
三重県	16	25	58	27,579	46
滋賀県	22	31	67	35,459	64
京都府	588	986	2,435	847,069	1,510
大阪府	785	1,198	2,854	1,315,911	2,214
兵庫県	134	202	474	220,632	378
奈良県	165	292	808	299,429	450
和歌山県	13	24	74	27,579	35
鳥取県	7	11	28	11,820	19
徳島県	7	9	20	15,759	23

運輸局ベース	2020/6	2020/7	2020/8	20Q1	20Q2
北海道	173	238	602	450,677	659
関東	1,334	1,967	4,487	2,071,305	3,736
中部	305	489	1,192	442,506	820
近畿	942	1,500	3,624	1,364,549	2,529
九州	219	321	731	352,742	626

注:全目的(観光・レジャー目的以外も含む)の訪問率をもとに訪日外客数を推計している。なお、地方単位(運輸局ベース)で推計される訪問率と訪問者数は、地方内の複数訪問を1回とカウントしているため、都道府県の訪問者数を単純に合算した値とは異なることに注意。シャドウは実績値。

図1 都道府県別訪日外客数の3カ月比較図



注:数値は最新月の予測値。

* 早期推計は以下の手順で行われている。まず、四半期ベースの都道府県訪問率を月次化し、それを用いて時系列モデルを推計、その6カ月予測を行う。これに訪日外客数(JNTO)を乗じて、月次ベースの訪日外客数を推計している。訪問率の実績値が発表されるまでは、このルーティンが繰り返される。本手法は当研究所の日本経済月次予測で用いている超短期予測のアイデアを応用しており、詳細な推計方法については Trend Watch No.54(2019年5月)参照のこと。

トピックス 1

●8月関西国際空港：訪日外客数の動向

▶8月の関西国際空港(以下、関空)への訪日外客数は**1,615人**で、伸びは前年同月比-99.8%減少した(図2及び図5)。再入国許可をもって出国した留資格のある外国人の再入国が8月5日より一定条件の下で認められたこともあり、幾分前月(834人)から増加した。なお、9月以降も入国制限は続くが、留資格のある外国人の再入国が緩和されるため、訪日外客数の増加が見込まれる。

●経済ショックからの回復の比較：外需関連

▶**関西8月の輸出は6カ月連続のマイナスだが、前月からマイナス幅は縮小**(図3)。輸出額は前年同月比-8.7%減少したが、対中輸出の伸びもありマイナス幅は3カ月連続で縮小。輸入額は同-17.0%減少し11カ月連続のマイナス(前月:同-18.5%)。引き続き対欧米向けの輸出が減少していることに加え、中東からの原油や原粗油の輸入の減少も影響した。結果、関西の貿易収支は2,082億円と7カ月連続の黒字となったが、貿易総額(輸出入合計)は前年比-12.6%減少しており(前月:同-15.1%)、昨年9月を除けば、2018年12月以降、連続して縮小している。

▶地域別の貿易動向をみると(図4)、**関西8月の対中輸出額は前年同月比+7.1%増加し3カ月連続のプラス**。中国経済の持ち直しもあり、半導体関連を中心に輸出が増加した。一方、対中輸入額は同-10.1%減少し2カ月連続のマイナス。輸出増に寄与した品目は半導体等製造装置、半導体等電子部品で、輸入減に寄与した品目は衣類及び同附属品、がん具及び遊戯用具であった。

▶8月の関空への訪日外客数は前年同月比-99.8%大幅減少し、7カ月連続のマイナス。新たに2府8県ベースで推計(APIR)された2019年の関西での外国人消費額は1兆2,127億円(確報ベース)となった*。このため8月のインバウンド需要の損失額は955億円(=12,127/12×関空への訪日外客数の減少率)と推計される。**結果、2-8月期インバウンド需要の損失合計は6,358億円となる。**

▶図5は関空訪日外客入国者数の動態をリーマンショック期、東日本大震災期と今回の3つの時期で比較したものである。8月は再入国者に対する入国緩和も一部行われたが、落ち込みは前月とほぼ同程度であった。9月以降、留資格をもつ外国人に対する再入国も徐々に緩和されるが、依然として厳しい入国規制がとられているため、訪日外客の急回復は期待しづらい。

*Trend Watch No.65 参照

図2 関西国際空港 訪日外客入国者数推移



出所:出入国管理統計より筆者作成。

2020年8月値は速報値(図5も同様)。

図3 関西 対世界貿易の推移

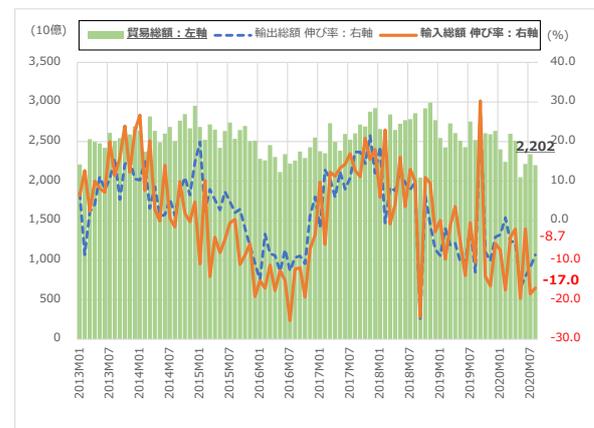
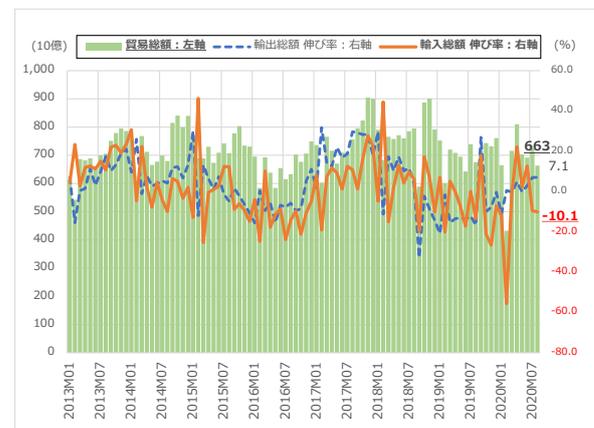
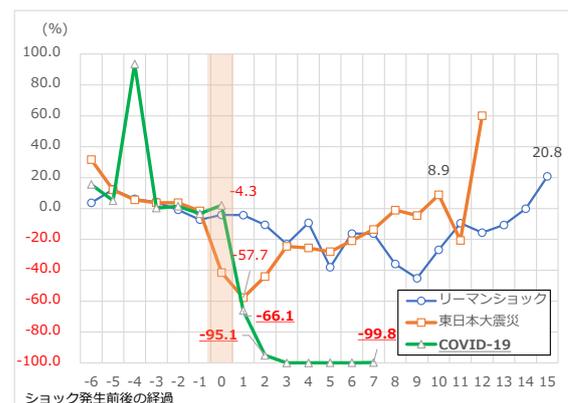


図4 関西 対中貿易の推移



出所:「大阪税関貿易速報資料:近畿圏」より筆者作成

図5 経済ショックからの回復の比較



トピックス 2

●6月 延べ宿泊者数の動向：関西2府8県

▶6月の関西2府8県の延べ宿泊者数(全体)は5カ月連続の前年同月比マイナス(同-74.4%)。全国を対象に5月25日に緊急事態宣言が解除され、6月19日に都道府県をまたぐ不要不急の移動も緩和されたことで、日本人宿泊者が幾分増加したようである。一方、外国人宿泊者については政府の水際対策強化による入国制限が続いているため、しばらく低水準が続こう。

▶うち日本人延べ宿泊者数をみれば、2,414.8千人泊となり6カ月連続の前年同月比マイナス(同-64.1%) (図6)。府県別に延べ宿泊者数が多い順でみれば、大阪府が768.8千人泊(同-66.1%)、兵庫県が421.6千人泊(同-54.2%)、京都府が399.4千人泊(同-72.7%)、三重県が229.5千人泊(同-62.9%)、和歌山県が140.8千人泊(同-53.1%)、福井県が130.2千人泊(同-52.5%)、滋賀県が122.5千人泊(同-63.5%)、鳥取県が77.1千人泊(同-62.2%)、徳島県が68.3千人泊(同-61.0%)、奈良県が56.6千人泊(同-67.4%)であった(図7)。各府県とも緊急事態宣言が解除されたことで前月より宿泊者数は幾分増加したが、依然として水準は低い。

▶うち外国人延べ宿泊者数をみれば、44.2千人泊となり5カ月連続の前年同月比マイナス(同-98.5%) (図8)。府県別に多い順でみれば、大阪府が30.5千人泊(同-98.1%)、京都府が7.8千人泊(同-99.2%)、三重県が1.7千人泊(同-95.7%)、兵庫県が1.5千人泊(同-98.7%)、滋賀県が0.7千人泊(同-97.9%)、和歌山県が0.5千人泊(同-99.0%)、福井県が0.5千人泊(同-94.4%)、鳥取県が0.4千人泊(同-97.2%)、奈良県が0.4千人泊(同-99.1%)、徳島県0.2千人泊(同-98.4%)であった(図9)。政府の水際対策の強化により訪日外客の入国制限が続いていることから、伸びは各府県で前月と同じく-90%を超える減少となった。

▶3-6月期の宿泊者数(関西2府8県ベース)の減少幅から国内旅行消費額の損失額を推計すると約0.9兆円となる(=4.1兆円/12×関西の延べ宿泊者数の各月の減少率)。また、7月速報値を考慮した3-7月期の宿泊者数(全国ベース)の減少幅から国内旅行消費額の損失額を計算すると約5.7兆円となる(=21.9兆円/12×全国の延べ宿泊者数の各月の減少率)。

図6 関西 日本人宿泊者数の推移

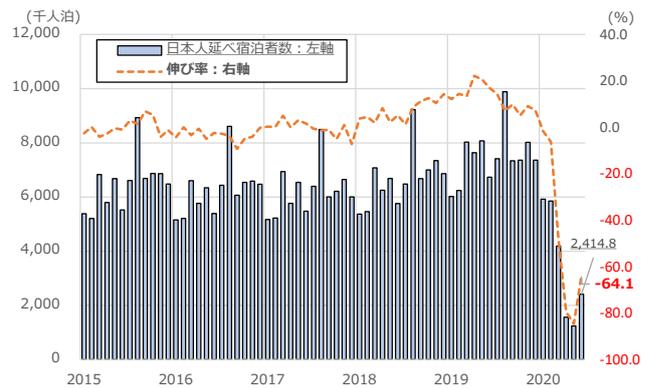


図7 府県別日本人延べ宿泊者数 推移

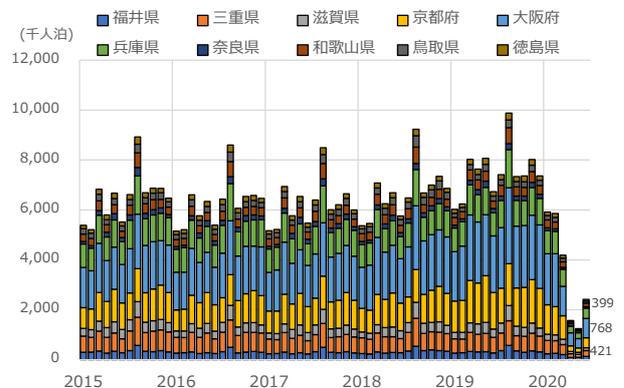


図8 関西 外国人宿泊者数の推移

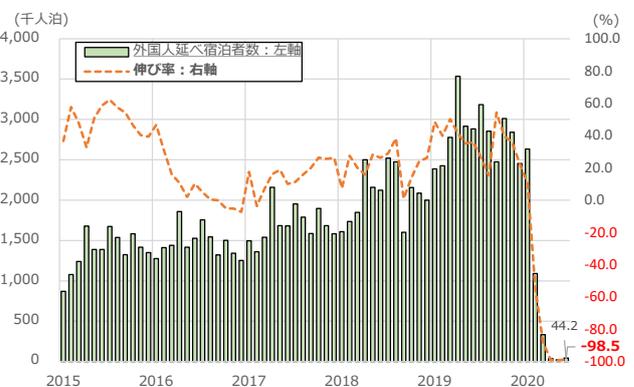
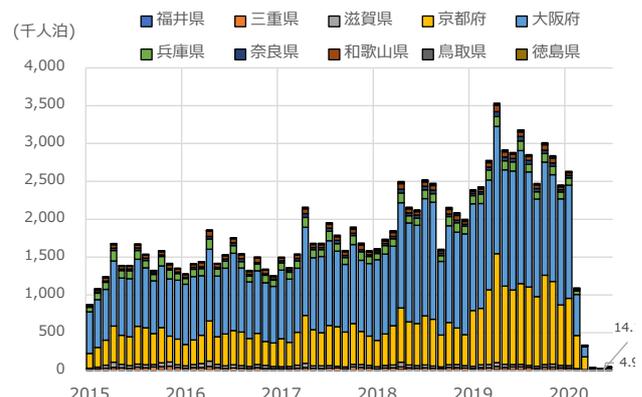


図9 府県別外国人延べ宿泊者数 推移



出所：観光庁「宿泊旅行統計調査」より筆者作成(図6~9)

表2 月次訪問率の早期推計表

訪問率	単位:%				
■府県ベース	2020/6	2020/7	2020/8	20Q1	20Q2
福井県	0.15	0.14	0.14	0.20	0.15
三重県	0.64	0.65	0.67	0.70	0.64
滋賀県	0.85	0.80	0.77	0.90	0.85
京都府	22.92	25.94	27.99	21.50	22.92
大阪府	30.60	31.54	32.80	33.40	30.60
兵庫県	5.23	5.31	5.45	5.60	5.23
奈良県	6.45	7.69	9.28	7.60	6.45
和歌山県	0.49	0.64	0.85	0.70	0.49
鳥取県	0.26	0.29	0.32	0.30	0.26
徳島県	0.28	0.24	0.23	0.40	0.28
■運輸局ベース	2020/6	2020/7	2020/8	20Q1	20Q2
北海道	6.76	6.26	6.92	11.44	6.76
関東	51.99	51.77	51.58	52.57	51.99
中部	11.89	12.87	13.70	11.23	11.89
近畿	36.72	39.48	41.65	34.63	36.72
九州	8.56	8.45	8.40	8.95	8.56

注: シャドウは実績値

図10 月次訪問率の推移

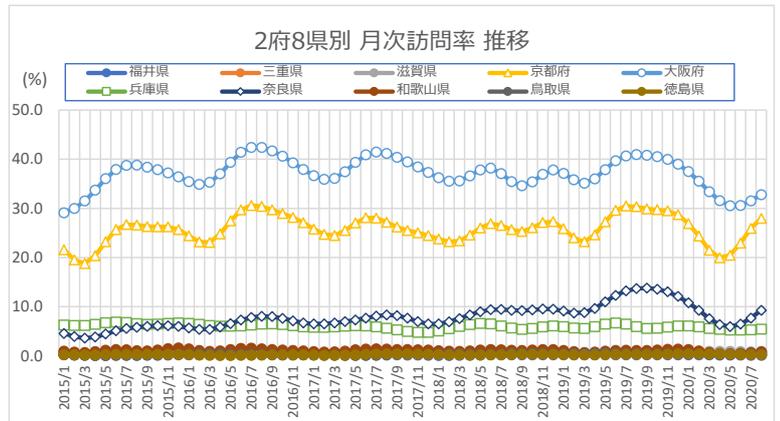


表3 2020年8月 訪日外客数 (JNTO 推計値)

国・地域	総数 Total			総数 Total		
	2019年 8月	2020年 8月	伸率(%)	2019年 1-8月	2020年 1-8月	伸率(%)
総数	2,520,134	8,700	-99.7	22,144,937	3,959,500	-82.1
総数(韓国・その他除く)	2,107,548	5,890	-99.7	16,587,050	3,303,120	-80.1
韓国	308,730	700	-99.8	4,733,063	478,800	-89.9
中国	1,000,639	1,600	-99.8	6,583,524	1,025,300	-84.4
台湾	420,279	400	-99.9	3,360,344	690,200	-79.5
香港	190,260	40	-100.0	1,504,959	344,970	-77.1
タイ	49,589	400	-99.2	806,386	215,800	-73.2
シンガポール	19,698	20	-99.9	255,497	54,820	-78.5
マレーシア	19,827	200	-99.0	280,713	75,000	-73.3
インドネシア	16,160	200	-98.8	257,248	70,000	-72.8
フィリピン	31,470	100	-99.7	364,361	104,500	-71.3
ベトナム	43,709	1,100	-97.5	337,718	113,200	-66.5
インド	13,308	300	-97.7	119,470	23,100	-80.7
豪州	26,951	90	-99.7	388,730	142,810	-63.3
米国	117,828	700	-99.4	1,149,817	215,300	-81.3
カナダ	27,568	80	-99.7	240,622	52,860	-78.0
メキシコ	4,800	10人未満	-99.8	45,085	9,380	-79.2
英国	26,213	200	-99.2	240,839	50,100	-79.2
フランス	30,851	200	-99.4	225,795	41,600	-81.6
ドイツ	17,264	100	-99.4	154,336	28,800	-81.3
イタリア	22,804	50	-99.8	111,138	13,200	-88.1
ロシア	8,321	60	-99.3	73,266	20,830	-71.6
スペイン	20,009	50	-99.8	87,202	11,350	-87.0
中東地域	6,254	70	-98.9	59,137	7,180	-87.9
その他	97,602	2,030	-97.9	765,687	170,400	-77.7

図11 訪日外客数 推移



出所: 日本政府観光局(JNTO)、2020年9月18日付より筆者加工